

図書館だより



稲荷山図書館



練馬区立図書館のレファレンス事業についてお礼状をいただきました。



練馬区立図書館が行っている日頃のレファレンス事業について国立国会図書館からお礼状をいただきました。

気になることや、調べものなどお気軽に図書館へご相談ください。

https://www.lib.nerima.tokyo.jp/web_reference.html

- | | | |
|---|-------|------------------------|
| 目 | P.2～3 | 練馬区ブックスタート20周年記念講演 |
| | P.4～5 | おすすめの本の紹介～夏に読みたい本～ |
| 次 | P.6 | 練馬区立図書館を紹介します～稲荷山図書館編～ |

ブックスタートからひろがる絵本の楽しみ



練馬区ブックスタート20周年記念講演

NPOブックスタート理事 日本子どもの本研究会会長
代田 知子 氏

練馬区のブックスタートは今年で20周年を迎えます。その記念事業として、5月8日に練馬区役所で講演会を開催し、「ブックスタートからひろがる絵本の楽しみ」のテーマでNPOブックスタート理事の代田知子氏にお話しいただきました。代田氏は練馬区で生まれ育ち、現在は三芳町の図書館でブックスタート事業などを通して親子と絵本を繋げる活動をされています。

監修:『ブックスタートの20年 自治体と市民が赤ちゃんのためにつながり実現してきたこと』
(出版・ブックスタート)

著書:『読み聞かせわくわくハンドブック—家庭から学校まで』 (出版・一声社)

講演

○ブックスタートで贈る楽しい体験

ブックスタートは絵本を開く楽しい体験とともに絵本を手渡すという活動です。なぜ絵本なのかというと、読んであげるだけで、愛情のこもった「声の言葉」を赤ちゃんに

届けることができるからです。絵本の中には、日常語とは違う詩的な言葉や言い回し、心地良く響く音が散りばめられています。作家が選び抜いた素敵な言葉のシャワーを浴びて、赤ちゃんの言葉と心が豊かに育ちます。

すべての赤ちゃんと保護者を対象に、乳児健診会場や図書館で、赤ちゃんと一緒に絵本を楽しんでもらい、すぐに家庭で実践できるように絵本をプレゼントします。もらった本なら、赤ちゃんが汚すのを気にせずに読めますからね。

○ブックスタートは親のためにも

ブックスタートは、むしろ親のためにあるように思えます。「おしゃべりできない赤ちゃんの気持ちなんて分からない」と悩んでいる親でも、読んでいるときに赤ちゃんが笑ったりすると、心が通じたと感じ嬉しくなります。子どもが可愛いく見え、子育ても楽しくなります。3分程度で読み終える絵本が多いので、忙しい親でも大丈夫。読んでいる間は、赤ちゃんと一緒に絵本の絵と言葉に集中し、存分に楽しんでみましょう。



○赤ちゃん絵本を楽しみましょう

赤ちゃん絵本を楽しむためには、読みながら赤ちゃんをよく観察しましょう。じっと見たり、声をあげたりしたら、この子は何を思っているのかな？と考え、より楽しめられます。読んであげたい絵本も、たくさん見つけたいですね。練馬区のブックスタートで配布されたリストから選んだり、図書館でおすすめの絵本を教えてください。

○赤ちゃんとのコミュニケーション

親の声を聞くと赤ちゃんは幸せになり、安心し、心が落ち着きます。あたたかい「声の言葉」を届けましょう。

赤ちゃんは本を読む大人の口の動きを真似して、口をモグモグさせます。おしゃべりの練習をしているのです。

絵本に何らかの反応を示したら、「これが好きなの？」などと話しかけてあげましょう。このやりとりが、大切なコミュニケーションの練習なんです。絵本を楽しみながら、物事を考えるもとなる言葉や、人間として幸せに暮らすためのコミュニケーション能力が確実にほぐれます。

○赤ちゃんとの絵本の楽しみ方

『いないいないばあ』（松谷みよ子：文／瀬川康男：絵、童心社）は、赤ちゃんから見ると、絵本の中のいろいろな顔が、自分に「ばあ」をしてくれる絵本。赤ちゃんは「顔」が大好きなので、驚くほどじっと見ます。『ととけっこう よがあげた』（こばやしえみこ：案、ましませつこ：絵、こぐま社）は、わらべうたの絵本。ゆったり歌うように読んであげると、泣いている子が泣き止むことも…。また、『ぞうくんのさんぽ』（なかのひろたか：作・絵、なかのまさた

か：レタリング、福音館書店）を読んでもらった子は、「ごきげん」という素敵な言葉と出会い、言葉をはぐくむと同時に、ぞうくんの頑張りを想像できる心も育てる。これが、絵本の力です。



光が丘図書館のブックスタートの様子

最後に、練馬区のブックスタート20周年、本当におめでとうございます。これからも、練馬区の赤ちゃんとお父さんお母さんのために、愛情たっぷりのブックスタートをお願いします。

○他にも講演の中で多くの絵本をご紹介します。区立図書館で多数所蔵していますので親子でお楽しみください。

えんやら りんごの木 松谷みよ子:文/遠藤てるよ:絵 偕成社
じゃあじゃあびりびり まついのりこ:作・絵、偕成社
ばいばい まついのりこ:作・絵、偕成社
おつきさまこんばんは 林明子:作、福音館書店
こんにちは どうぶつたち とだきようこ:案/さとうあきさ:写真 福音館書店
ぼんちんぱん 柿木原政広:作、福音館書店

練馬区立図書館職員がおすすめする、『夏に読みたい本』

大人向けの本

『きっと誰かに教えたくなる蚊学入門
—知って遊んで闘って—』
—盛和世／編著 緑書房



寝苦しい夜にブーンという羽音、かゆみを伴う不快感。そんな厄介な蚊から身を守るための薬剤の開発の歴史、蚊が媒介する感染症の中には、恐ろしい病気があること、蚊の生態や、蚊に刺されやすい人はいるのかなど、蚊に関わる様々な分野の専門家が、よくある身近な疑問にも答えてくれる蚊の季節にお勧めの本です。

『わたしたちはまだ、その場所を知らない』
小池昌代／著 河出書房新社



詩を愛する女子生徒ミナコとかつて文学を志した国語教師サカグチは、周囲に少し馴染めない同士。二人は週に一度の詩の個人授業を通して交流を深めていきます。同じく詩作に励む男子生徒ニシムラとの出会いを契機に、詩に惹かれる者の揺れ動く心情とどこか物寂しい情景描写が織り交ざる、大人も楽しめる青春の一冊です。

『深夜航路 午前0時から始まる船旅』
清水浩史／著 草思社



旅行の手段として、時間のかかるフェリーを使う機会は少ないかもしれませんが、船旅、特に深夜に港を出発し暗闇の海を進む船の姿には、まるで別の世界に行くような非日常感があります。本書は深夜発のフェリー14航路の旅行記です。船内の様子や航路の情報の他、目的地での著者ならではの少しマニアックな情報に基づくストーリーが楽しめます。

『日本のもじ鉄 鉄道サインと書体の図鑑』
石川祐基／著 三才ブックス



「もじ鉄」とは何か? 「乗り鉄」や「撮り鉄」とも違い「鉄道の駅の看板や文字が好きの人」のことだそうです。この本では、JR北海道から沖縄・ゆいレールまで、全国201路線の駅名標や鉄道サインを紹介しています。普段あまり目にするのではない「由利高原鉄道」や「阿佐海岸鉄道」など、旅情をかき立てる駅名表記を眺めつつ、遙か遠くの小さな駅へと思いをはせてみませんか?

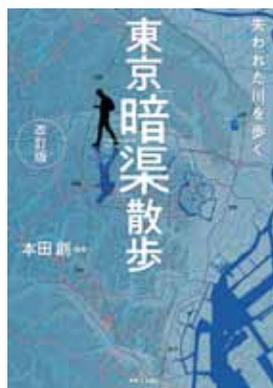
『旅の終わりに』

マイケル・ザドゥリアン／著 小梨直／訳
東京創元社



かつて家族で旅したルート66を、愛用のキャンピングカーでたどる旅に出た認知症の夫ジョンとガン治療中の妻エラ。強盗にあったり、エラが置いていかれそうになったり、超高級スイートに泊まったり…。そして、二人の旅の最後の目的地とは。老いについて、夫婦について、人生について考えるきっかけをくれる一冊です。

『東京「暗渠」散歩 失われた川を歩く』
本田創／著 実業之日本社



「暗渠」。それは、かつて流れていた川や水路の痕跡。昔は東京にも無数の水路がありましたが、現在はそのほとんどに蓋がされるか埋め立てられ、暗渠となっています。暗渠をたどっていくと、過去に存在した川の痕跡や、町名、通りや坂の名称が川の流れる地形に由来していることが分かります。あなたもかつて川が流れていた町の姿を想像し、暗渠探索の魅力に触れてみてはいかがでしょうか。

おうちでも本を読もう!～家庭読書のススメ～

練馬区では家庭での読書活動を推進しています。家庭における読書は、本を通じて家族で話し合う時間を持ち、きずなを深めるきっかけにもなります。年代別の読書案内を発行しているので、本選びの参考にしてください。

おうちの人と一緒に読んで、感想などを話してみてくださいね!

令和4年度版「よんでみようこんなほん」

「よんでみようこんなほん」は赤ちゃん・幼児、小学生向けの本を集めた読書案内です。練馬区の図書館と区内の地域文庫の選定により作られており、「あかちゃん・ようじむけ」「低学年むけ」「中学年むけ」「高学年むけ」のそれぞれの年代のおススメ本が満載です。

区立図書館、区内の地域文庫、区内の学校等で配布しています。

区立図書館ホームページから最新号の「よんでみようこんなほん」掲載図書がご覧いただけます。

<https://www.lib.nerima.tokyo.jp/kodomo/osusume/index.html>

令和4年度版「コンパス～君に届けるこの一冊～」

「コンパス～君に届けるこの一冊～」は、中学生、高校生に向けた読書案内です。左開きで読むと中学生向けの本から、右開きで読むと高校生向けの本から読めるダブル表紙になっています。

区立図書館、区内の中学校、高校等で配布しています。

区立図書館ホームページから最新号の「コンパス」掲載図書がご覧いただけます。

<https://www.lib.nerima.tokyo.jp/seishonen/compass/>

練馬区立図書館職員がおすすめする、『夏に読みたい本』

『夏に読みたい本』

子ども向けの本

『トマトさん』

田中清代／さく
福音館書店



トマトの木から「どった」と地面に落ちた真っ赤なトマトさんは、太陽に照らされ、暑くてたまりません。すると、ミニトマトたちが「ころころぼっちゃん」と小川に飛び込んで泳ぎ始めました。トマトさんも小川で泳ぎたくりますが、体が重くて転がっていきません。そこへ虫やとかげがやってきて…。トマトの目線で語られる、暑い夏の日のおはなしです。

『おつきよちゃんとかっぱ』

長谷川摂子／作 降矢奈々／絵 福音館書店



おつきよちゃんが川で遊んでいると、かっぱのガータロに水底のお祭りに誘われました。かっぱたちに歓迎されお餅をごちそうになると、水の外のことを全部忘れてしまいます。かっぱの子になって楽しく暮らすおつきよちゃん。ある日、お母さんの作ってくれたお人形が流れてきて、家のことを思い出します。はたして家に帰ることはできるのでしょうか。

『西の魔女が死んだ』

梨木香歩／著 新潮社



中学に進んですぐ不登校になったまいは、しばらくおばあちゃんの家で過ごすことになりました。そこで、イギリス人のおばあちゃんから魔女の話聞き、魔女修行を始めます。魔女の必須条件は、「何でも自分で決める」ことでした。その力をつけるために、規則正しい生活を始めたまいは、自然の中でおばあちゃんと暮らしながら、いろいろなことを教わっていきます。

練馬区立図書館を紹介します～稲荷山図書館編～

稲荷山図書館



稲荷山図書館は、練馬区で7番目の図書館として昭和63年5月に開館しました。近くには稲荷山憩いの森と清水山の森があり、豊かな自然に恵まれています。

館内では各世代に向けたテーマ展示を4か所で実施している他、高齢者向け資料を集めた「いきいきコーナー」などがあります。

稲荷山図書館の最大の特色は、他の図書館には類を見ない「昆虫コーナー」です。昆虫資料は専門書から児童書まで約8,000冊、昆虫標本は色鮮やかな蝶や珍しい昆虫をはじめ約5,000点を所蔵しています。標本は年に一度入れ替えを行い、昆虫コーナーに展示しています。

また、カブトムシやニジイロクワガタ、蝶のオオムラサキやアサギマダラの飼育展示も行っています。特に、夏休み期間はカブトムシを見に、多く子どもたちで賑わっています。昆虫に関連したイベントもあり、大人向けには昆虫講演会、子ども向けには昆虫採集やカブトムシのえさやり体験、標本作製などを予定しています。

昆虫が好きな方、そうでない方も是非一度お越しください。



稲荷山図書館 ☎03-3921-4641
大泉町1-3-18



練馬区立図書館の公式YouTubeチャンネルをご存じですか？

これからコンテンツを続々と増やしていきますので、ぜひチャンネル登録をお願いいたします。

<https://www.youtube.com/channel/UC6OgmERU6FuyyO3c-y5CQkA>

図書館だよりに広告を掲載してみませんか？

区内図書館、区内小中学校、幼稚園、保育園、練馬区役所、区民事務所、光が丘駅などに無料配布している、図書館だよりに広告を掲載できます。

お問い合わせは
03-5383-6500
光が丘図書館事業統括係へ

練馬区立図書館報「図書館だより」第50号
令和4年（2022年）7月14日発行

発行：練馬区立光が丘図書館
所在地：練馬区光が丘4-1-5
TEL：03-5383-6500
練馬区立図書館ホームページ
○<https://www.lib.nerima.tokyo.jp>



R270

古紙パルプ配合率70%
白色度70%再生紙を使用しています